

平成28年度 第2回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

1. 日時

平成28年10月12日（水） 18：30～20：30

2. 場所

桐生市役所 6階 605会議室

3. 出席者

(1) 委員（13人）

会 長：宝田 恭之〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表〕
委 員：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕
初山 和久〔桐生商工会議所 副会頭〕
大澤 豊〔桐生商店連盟協同組合 理事長〕
田中 忠雄〔新田みどり農業協同組合 常務理事〕
栗原 和人〔桐生広域森林組合 総括課長〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
川島 悦雄〔桐生瓦斯株式会社 総務部参事〕

(欠席者1人)

委 員：西菌 大実〔群馬大学教育学部 教授〕

(2) 事務局（5人）

根岸市民生活部長
助川環境課長
金子環境都市推進係長
高橋主事
遠藤主事

4. 議題

- (1) 将来構想に掲げる取組の進捗状況について
- (2) 将来構想の推進に係る委員意見・提案等について
- (3) その他

5. 議事要旨等

(1) 将来構想に掲げる取組の進捗状況について

①将来構想実施計画（平成27年度）の実績について

②将来構想実施計画（平成28年度）の中間報告について

平成27年度実施計画の実績及び平成28年度実施計画の進捗状況について説明

(2) 将来構想の推進に係る委員意見・提案等について

来年度に向け検討している省エネ・新エネの補助金について意見を聴取

将来構想を推進するためのアイデア出しについてフリートーク形式で実施

(3) その他

協議会の意見を市の各部局へ周知し、協議会の意見を踏まえた来年度予算の編成について検討するよう依頼する旨のお知らせ

委員謝金について、今年度の協議会の出席回数に応じた謝金を11月中に支払う旨のお知らせ

6. 委員意見（質疑応答）

〔議題1〕 将来構想に掲げる取組の進捗状況について

【委員】

実施計画の内木質バイオマスの項目について、市においては、木質バイオマス発電施設を整備する計画はあるのか。

【事務局】

市が参加している『わたらせバイオマス協議会』において、整備する方向性の話はでているが、現在の状況では、木材の供給体制が整備されていないため、発電施設整備は今後の課題となる。まずは木材をためるストックヤード整備の調整を第一に考えていきたい。

【委員】

前橋市の赤城山麓で（株）関電工が計画しているバイオマス施設が稼動すると、広域での材の供給が必要となる。そうなった場合、桐生市単独での発電施設稼動は難しいと思われる。

【委員】

群馬県からも赤城の方へ材を優先的に納入すれば色々な補助を組み込めるような話を伺っている。発電するには、木材を集めるためのストックヤードが必要となる。『わたらせバイオマス協議会』と一緒にできれば、ストックヤード内において小規模な発電施設ができればと考える。桐生市がストックヤードを整備すれば、材の納入においても、地域内での地産地消を推進するため、赤城への施設より少し高く受け取るという話もできると思う。

〔議題2〕 将来構想の推進に係る委員意見・提案等について

【委員】

『EV』や『PHEV』、またそれらの『充電設備』となるインフラの整備に対して独自の補助施策を行っている自治体があるが桐生市は検討しているのか。また、群馬大学でも実証段階にある『マイクロEV』など含め、桐生市ではこれらを対象とした補助事業の検討はされているのか。

『道の駅くろほねやまびこ』への充電設備設置の予定もあるようだが、航続距離を伸ばせるよう細かな充電整備の整備が必要であると思う。桐生市も今後補助使って整備してはどうか。なお、充電設備は日本充電サービスのカードを使った支払いができ、設備利用のしやすい面もあるため取組について検討いただきたい。

【事務局】

エコカー購入に対する助成については、現在国による減税措置がなされていることまた、補助を行っている自治体が県内で1団体のみであることから、他の市町村の

状況等見据えながら検討していきたい。充電設備については、本年度『道の駅くろほねやまびこ』に1基整備される予定となる。国・県の動向として県のEV協会において現在設置場所のニーズ調査をおこなっている。

また、次世代車両の登録台数は、ハイブリッド車が多く、電気自動車は1/10程度となっている。公共施設への設置については、設置後の維持費が検討課題となるため、各市町村とも導入には慎重となっているようである。

設備導入については、他の市町村の状況等見据えながら検討していきたい。

【委員】

設備の利便性を高めることも今後の普及につながると思うので検討していただきたい。

【会長】

県EV協会においては、県西方面への整備が手厚いと思う。

【委員】

環境先進都市として掲げているのに、充電設備1台では他の自治体と変わらないと思う。桐生市ではこれまで実証実験にて次世代EVを走らせたりしてきたので、環境先進都市としてもっとアピールした方がよい。桐生市でしかできないことを実施したほうが良い。現在国からEV系の補助金が出始めている。桐生市でマイクロEVの実験など、他の地域ではできないことをもっと始めていって欲しい。

【委員】

木質系エネルギーに関する補助金として、沼田市・川場村でも行っているが、薪ストーブの購入補助を中之条町で行っている。木質ペレットストーブ購入補助は渋川市で行っており、桐生市でも木質系の補助を検討実施してはどうか。これまでの予算において木質系に対する金額が実施計画には入ってなかったのが検討材料として欲しい。

また、住宅業界として、断熱や遮熱関係、蓄電池等、省エネに関する項目に関して補助がつかないか検討していただきたい。

グリーンカーテンについて、庁舎へのカーテン実施は実施計画に載っているが、市民向けの啓発として、GW頃のイベントで種の配布や学校関係・子供が関係するところでの啓発に向けた予算付けをして欲しい。

【事務局】

環境先進都市構想の中で、水とみどりの活用は重要視されている。地域の資源を地域内で循環できるようになれば良いと考える。わたらせ森林組合へチップ・ペレットについての供給を確認したが、個人向けまではまだ間に合わない状況のようであった。

そのため、現在はその前段階であると感じる。まずはストックヤード整備を検討していきたいと考える。

住宅用の補助金について、都市整備部の建築関係課において現在おこなっている住

宅取得応援事業、桐生市住環境改善事業において建物そのものに対する補助の検討をお願いしていきたい。

グリーンカーテンについては市民の啓発に良いと思う。近隣の市でも行っているため、新年度実施できるよう環境課でも検討していきたい。

【会 長】

館林市ではグリーンカーテンでゴーヤをつくり、それを食べるための講座も一緒に開催されている。

【委 員】

各団体が行っている環境活動やイベントに関する情報等については、資料のとおりとなる。地中熱利用研究会において、地中熱利用技術者養成実証講座を開催している。

また、地中熱・浅層熱を利用した空調システムとして、100から150万円/戸建住宅にできるようなシステムを県の補助をもらい研究中である。同様に市民向けの設備設置について補助を市で実施してはどうか。

ソーラーシェアリングシステムは、耕作放棄地等での太陽光発電行うシステムで、土地の3割を発電設備にあて、残り7割を農業用地として利用する考え方である。具体には、農地の中に支柱を立て、地上3メートル程度にパネルを設置する。支柱の部分のみに農地転用の届けが必要となるようである。

スマートシティについては大きな課題であるので、行政だけではなく、広く市民や企業と連携する必要がある。勉強会を市民を含めて行っていけばどうかと考える。

【事務局】

各関係団体については今後協力できればと考える。地中熱は今後期待されるシステムであると思う。産官学研究会での研究も進んでいる。住宅における地中熱利用の補助は来年度の予算で検討していきたいと考える。

ソーラーシェアリングシステムについては、市内に設置されているか、またニーズがあるのか農業振興の所管と一緒に研究し、今後の検討課題としたい。

スマートシティについては、将来構想の中にも載せている。ロードマップでは平成37年からの取り組みになっている。市では、関東スマコミ連携体に参加し、スマートコミュニティに興味ある市町との勉強会に参加している。先進事例等を研究し、できるところから進めていきたい。

【会 長】

スマートコミュニティについては、大きな課題であると感じる。検討会等開かないと推進は難しいと思われる。

【委 員】

ソーラーシェアリングは農業委員会で2件程度許可を出している。農業振興地域で

あっても除外の手続きを行うことなく実施できる。固定資産税も農地のままであるが、発電と同時に農作物の生産をやっているかどうか支払報告書を提出する必要があるため、確かに農業と両立することができるのか。まだ成功しているかどうかはわからない。

また、3年事業を行いうまくできてないと認可の取り消しもありえるため、今後様子を見る必要があると思う。

【委 員】

ソーラーシェアの協議会も立ち上がったばかりであり、これから実験データをとる段階である。

【委 員】

太田市の藪塚町やみどり市の笠懸町でも実施している方がいるが、話を聞くと実施要件として、平年収量の8割を確保しなければならないこともあるので難しい印象を受けた。

【会 長】

前橋市・高崎市にも大規模に実施しているところがあるようである。海外ではモンゴルで実証されているようである。ひとつの方向性ではあると思う。

【会 長】

地中熱のほかに、地下水の熱利用も面白いと思うが、桐生は水があるので利用できると思う。

【委 員】

古井戸があれば活用できると思う。

【委 員】

先進都市を推進するには、行政だけでなく市民も巻き込んでいくのが大事であると思う。

【事務局】

市民の意識を高めるのは非常に大切と感じている。計画策定からまだ時間がたっていないこともあり、市民に取り組み事態を知られていないというのが現状である。市が広報等利用し、また地域へ実際に出て行って市民意識を高めるのは急務であると感じている。今後各団体からも情報をいただき、一緒に発信していけたら早くできると思う。本年度は特に力を入れていきたい。

【委 員】

未来創生塾等特徴的なことをやると意識をもってもらえると思う。啓発事業は難し

いと感じる。

【事務局】

市としてこれまでPRがうまくできていなかった。例えば、MAYUは観光・市民の足として事業を実施しているが、環境の部分が弱いと思う。関係部署と連携しPRしていきたい。本年度ミストシャワーを私立保育園に設置したが、子供の暑さ対策のイメージが強く、環境の取組としてのPRはできていなかった。親御さんにも周知できるように意識高揚につなげていきたい。

【委員】

将来構想が解りにくい。市民に対してもう少し解りやすいものを作ったほうがよい。中小企業の取組について、神奈川県小田原市にある鈴廣の工場の取組について講演を受けた。省エネ完備の工場を整備し利益を上げているようである。中小企業は忙しく勉強がなかなかできない。市の職員が太陽光を導入するメリット等の案内や補助金の案内等実施して欲しい。業者が売り込みにくるが、本当なのか不安になる。市職員が高い知識をもって説明し、相談できる体制づくりをとっていただきたい。

【事務局】

桐生市は環境先進都市を打ち出しているが、どのように取組をすべきか。現在の体制では何を目標しているのかが解りにくい。桐生市の目指すところを協議会の意見として出していきたい。協議会から意見をいただいて、方向性を見出していきたい。他の先進都市を参考にし、市担当者が勉強していかなければならないと思う。

【会長】

桐生市は予算が少ない。来年度予算に向け事業を見極めて欲しい。大学では国の補助金の情報をチェックしている部門もある。市は部署同士が連携し、受け皿の異なる補助金の情報を確認していけば、効率よく情報を収集することができると思う。

神奈川県小田原市の例は補助金無しではつukれないものであると思う。補助金を導入し成功している例といえる。市においても市の予算以外においても補助金の情報等を確認し、実施計画の進捗を高めていただきたい。

また、桐生の産官学民が一体となっている体制は全国でも非常に珍しく、他にはない取組であると感じる。

【事務局】

中小企業の省エネの支援については、本年度ぐんま資源エネルギー推進協会が設立され、ミツバ産業が事務局を勤めている。この事業は、国より省エネの取組に対して3年間の補助を受けるもので、主な事業としては、中小企業への省エネ診断士の派遣・補助事業の案内や相談会の開催等を実施する。

【委員】

国の補助金について、市が申請すると100%補助されるものや、環境先進都市に関係のあるバイオマス関係・次世代モビリティ等のメニューも現在でているようである。

【委員】

環境先進都市と言っているが、清掃センターは人力で分別作業をしている。桐生市は分別を徹底し、分別にうるさいまちということで環境先進都市をうたうのも良いと思う。日本で一番分別をしているまち。そういう象徴的なことから始めたらよいのではと思う。

【事務局】

先進都市といっても全てが先進的なものということではない。ひとつのことに特化してやることも視野にに入れていきたい。桐生市として何をやるべきか。方向性を協議会として見出していきたい。全国で先駆的な取組として、桐生市型の環境先進都市を目ざしていきたい。

【委員】

お金をかけずに知恵でつくっていくのも方法である。

【事務局】

市では環境課が中心となり、市内での関係各課連係した連絡会を立ち上げ、それぞれの部署で県・国から情報を受け、横の連係により財源の確保をしっかりとしていきたいと考える。

【委員】

現在、重伝建の認定が取り消しになるような情報を聞いた。桐生新町に古い水路跡が見つかったようであるが重伝建にみあったような取組として、残っている住宅のほか、水路の復活にも力をいれたらよいと思う。水路に水車が並んでいた昔の桐生の風景復活と『メイドイン桐生』の水力発電ができれば魅力あるまちにできると思う。関係各課と調整し重伝建地区が守られた魅力あるまちづくりをおこなって欲しい。

【会長】

これから市内において連係し始めるということなので、まちづくり担当所管と環境所管は連携して事業をおこなっていただきたい。

【委 員】

桐生市はゴミの発生量が県内で一番多い。ゴミを買っているようなものであり、損をしない考え方を身につけた方が良いと思う。何か旗印が必要だと思う。インパクトのある事業が重要である。しかし、何かやろうとすると必ず規制があるので、牽引できるような市民の人材育成をしていければよいと考える。

【委 員】

赤岩用水を使う良い方策を考えていただきたい。

【事務局】

赤岩用水については、緑の分権で過去に検討をおこなった。新町の水路復活について、重伝建担当課と連携をとりながら進め、構想にも載っている昔のよき時代桐生の復活ができるよう研究していきたい。

【会 長】

環境の先進として、良いものを長く大切に使うことが良いと考える。これにより、ゴミを減らすことができ、CO₂の削減効果も2億7千万トンできる計算である。先進都市として、良いものがわかる人材を育成していくことを実施していきたい。未来創生塾もこの取組に近いが、風合いのわかる人を育て良いものがわかる人を育てたい。

【委 員】

小田原市の鈴廣は太陽光を明かりとして取り込み、曇りの日は、LEDを照明に使っている。自然の光を照明とする考えも面白いと思う。

【会 長】

桐生市として、のこぎり屋根風の屋根から光を取り込むのも良いと思う。

【委 員】

桐生は日照量が高い。町の特徴をアピールできるとよいと思う。モデルハウスのようなものがあつたらいいのでは。

【事務局】

市民は体験できるとイメージがわくと思う。

【会 長】

地元の特徴・資源を生かしたようなまちづくりとして国・県より補助をもらえるとよい。

【副会長】

意外と業者から提供してくれることもある。PRになるとすればやる事業者も多いと思う。

【委員】

実施計画の実績をみると、消化試合が多いと感じる。新里町の産業祭にかかわっているが、環境先進都市をアピールするために、看板やチラシに冠をつけるといったソフト的な行動をし、取組んでいる感じが出せると良いと思う。

【事務局】

今後各課へ本日いただいた意見を下ろしていく。関係部署にも話しを下ろし庁内の連係を行う。当該課と話を進めていき、予算のつくものつかないものもあるが庁内のつながりをもって取り組んでいきたい。

【委員】

県産材を使った家は県の補助金を受けて建てた住宅という目印があったら見学会とかでPRできると思う。また、ノコギリ屋根風の家を設計し、内覧会を先日おこなった。とても関心をもっていただけた。照明や空調を使わなくてもよいエコハウスである。桐生モデルの住宅・桐生タイプの住宅として今後生かせればと考える。

【事務局】

低炭素型として桐生市にあったものが実現できれば良いと思う。

【会長】

地域コミュニティのもっている文化・歴史をきちんと活用して省エネができればなお良いと思う。

【委員】

環境の先進として、観光ビデオのようにライフスタイルが目で見えるようなイメージができると市民も実感が沸くと思う。

【委員】

商店街の安心安全のため、防犯カメラを現在50台設置している。交差点は事故が多いため、今後も設置をしていきたいが電源確保に苦慮している。電源確保にむけた新たな方策を模索している。現在桐生市では防犯カメラの設置はどのようにおこなっているか。

【事務局】

防犯カメラ設置状況は地域で台数をというのはいまのところはされていないと思われる。

【会 長】

防犯カメラもプライバシーの問題もあるので難しいと思う。

【事務局】

公的な施設については門等につけている。庁内にも窓口対応用として設置されている部署もある。

【副会長】

市民団体の方でも補助金等を得て活動をおこなっている。国交省からは『水辺の学校』への補助を得ている。鳴神山の整備においても補助を得ている。活動は行っているが、情報の発信が苦手であると思う。電動アシスト自転車も良い事業であると利用者からは言われているがうまく発信できてないと思う。環境先進都市として上手に情報発信し、現在の活動についてアピールをしていきたいと考える。

— 以上 —